

地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業計画書

1. 基本情報

自治体名	他市町村との連携	事業番号	事業名
鏡石町		A-2	台湾インバウンドに向けた鏡石町魅力発信事業

2. 風評等の現状や課題、これまでの取組

自治体が抱える風評等の現状について
令和 5 年度から福島空港にはタイガーエアーの定期便が就航しており、インバウンド客の中でも台湾からのインバウンドに期待が持てる状況にある。しかしながら、2023 年の「観光庁宿泊旅行統計調査」において 2019 年比で福島県の一番回復率が低く、本町も福島空港から 10 km 圏内の環境にあるがインバウンド客の足が運んでいない状況にある。
上記の現状の原因となる課題について
本県のインバウンド市場で宿泊者数が一番多い台湾であっても、他都道府県と比較すると低い状況にあるため、正しい情報発信が必要である。 また、本町の農産物や観光コンテンツの認知度が低いことから、本町の有する「農産物の魅力や観光コンテンツの魅力」を発信する必要がある。
上記の課題に対するこれまでの自治体の取組について（自治体独自の取組を含む）
【台湾との交流】 令和 3 年度、5 年度：「JENESYS」に参加し、かがみいし田んぼアートの紹介、PR を台湾の大学生に行い交流を深めた。 令和 7 年度：本事業を行い、台湾桃園農工高校との交流、台湾現地でのパンフレット配布や特産品試食により魅力発信を行った。また、教育旅行及び観光旅行の商談会に参加し PR を図った。
【インバウンドを意識した PR】 令和 5 年度：「ホスタウンフェスティバル国際交流パビリオン」に参加し参加国の大使館職員に対して特産品、観光についてセールスを行った。
【その他】 ・岩瀬農業高校では食の安全・安心を発信するべくグローバル GAP 認証が 18 品目となり高校日本一の認証数となっている。
上記の取組における成果について
・令和 5 年度は、かがみいし田んぼアートに約 100 人のインバウンド客が訪れた。継続的に僅かながらも海外からの観光客が訪れている。 ・将来的な海外への輸出を視野に入れ、岩瀬農業高校のグローバル GAP 認証食材を活用した 6 次化商品の開発に取り組んでいる。

3. 事業内容の詳細

今年度の具体的な取組内容

1. 風評払拭を目的とした、地元学生と台湾現地学生との交流及びモニターツアー

- ①実施期間：令和8年4月～令和9年3月
- ②実施体制：鏡石町、岩瀬農業高等学校、委託業者
- ③実施場所：鏡石町、台湾
- ④概算費用：5,000 千円
- ⑤実施内容：

本事業は、東日本大震災を知らない台湾の若い世代に対して、誤った理解が広がらないよう岩瀬農業高校のグローバル GAP 認証食材を活用して正しい情報を発信するため、高校生同士によるオンライン交流や現地でのプロモーションイベントへの参加、モニターツアーの実施を図る。

■訪台関係

○台湾の農業高校の生徒とのオンライン交流（2回以上）

台湾の農業高校の生徒と地元学生（岩瀬農業高校）とのオンライン交流を行い、グローバル GAP 認証食材による鏡石町の食の安心・安全を伝えることによるイメージ回復に努める。

○下記2の事業「東北イベント等」への岩瀬農業高校生徒派遣によるプロモーション

「東北イベント等」へ地元学生（岩瀬農業高校）を派遣し、高校生が実際に台湾へ赴きグローバル GAP 認証食材の PR を初めとした鏡石町の魅力を発信することで、本町のイメージ回復を図る。また、派遣時にはオンライン交流を実施した台湾の農業高校の生徒に対するグローバル GAP 認証食材の安全性や震災時の様子から復興までの講演等を行う。

【行程（案）】

1 日目：移動日 2 日目：台湾の農業高校の生徒への講演（グローバル GAP 認証食材の安全性、震災時の様子から復興まで） 3, 4 日目：東北イベント等への参加（グローバル GAP 認証食材を活用した加工品の試食、風評払拭に係るアンケート調査） 5 日目：移動日

※参加者

鏡石町産業課 1 名、生徒 4 名、教諭 1 名、町関係者 1～2 名

■訪日関係

○モニターツアー

東日本大震災を知らない台湾の若い世代（農業高校の生徒）に対して、モニターツアーを実施することで、実際に町、福島県がどこまで復興したのかを肌で感じていただく。そして、岩瀬農業高校のグローバル GAP 認証食材 18 品目の生産過程を見学していただくことで安全・安心を知っていただく。また、町内の観光地や農家さんの生産過程を見ていただき、町の魅力を知っていただくとともに、知識を習得し帰国後に台湾現地で正しい情報発信（個人 SNS 等）を行っていただく。

【行程（案）】

1日目：移動日 2日目：岩瀬農業高校グローバル GAP 生産過程視察 3日目：町内（田んぼアート、岩瀬牧場、ふれあいの森、地元農家）視察 4日目：移動日

⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：

岩瀬農業高校が有するグローバル GAP 認証食材 18 品目をオンライン交流やモニターツアー時に伝えることで、科学的根拠を基にした食の安全・安心を伝える。その際、本町が有する農産品、特産品の安全性を試食等による伝える。

また、復興・創生に向け、今後の台湾からの観光誘致に向けたモニターツアーを実施して、令和 9 年度以降につなげる。

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：

高校生がオンライン交流、現地イベント参加時に試食やパネル展示の紹介により本町の有する「食、観光」等の魅力を伝える。また、実際にモニターツアーにより本町を体験等を通じて魅力を感じていただく。

⑧福島県内でイベント等の事業を実施する理由

(1) イベント等への参加者の半数以上が県外からの参加者となる理由とその確認方法：

モニターツアーは台湾の農業高校の生徒を対象として募集することから全員県外からの参加者である。

(2) 事業費の半分以上が県外への情報発信に要する費用となる手法：

モニターツアー参加者はすべて台湾からの参加者であることから、費用についても全額県外向けとなる。

2. 台湾で行われる東北イベント等への参加

①実施期間：令和 8 年 4 月～令和 9 年 3 月

②実施体制：鏡石町、岩瀬農業高校、委託事業者

③実施場所：台湾

④概算費用：5,000 千円

⑤実施内容：

・台湾で行われる東北イベント等への参加

・本町の魅力度と福島風評に関するアンケートを実施する。

→来場者へイベントの感想を共に風評への対応としてアンケートを実施し、町内お土産 500 円程度をプレゼント

・繁体字の「おさんぼマップ」配布による本町の紹介（R7 事業作成物増刷）

【想定内容】

ブースの詳細：加工品（ジャム、甘酒）和菓子など特産品の試食等

アンケート調査：500 人に対して風評動向調査を実施する。お礼としては、町公式キャラクターグッズなどの特産品プレゼント

来訪者（想定）：岩瀬農業高校 4 名、町産業課 1 名 ※予定

※通訳については、現地の方を2名手配予定

【行程（案）】については、1の事業同様

⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：

・町特産品試食等による食品の安全性の発信

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：

・パネル展示等による本町の風景や食の安全、町が有する観光などの魅力発信 ・「おさんぽマップ」配布による発信

4. 事業における目標等

今年度におけるアウトプット ※定量的な目標に限る	今年度におけるアウトカム ※定量的な目標に限る
<ul style="list-style-type: none">・台湾現地学生と地元学生とのオンライン交流 2回以上・現地イベントへの参加 1回以上・台湾向けパンフレット 5,000部配布・アンケート調査 500人以上	インバウンド客数（R8末）：1000名以上
長期的な目標 ※1つ以上は定量的な目標を設定	長期的な目標の現在の進捗状況 ※達成度合いも記載（○%）
<ul style="list-style-type: none">・教育旅行誘致 1校以上・台湾から観光客 1,000人以上/毎年・継続的な台湾現地学生と地元学生との交流	<ul style="list-style-type: none">・教育旅行誘致：0校（達成度0%）・令和7年度：100名程度（達成度10%）・継続的な台湾現地学生と地元学生との交流（達成度0%）